

## 報 告

# 千葉県野田市民のコウノトリとその野生復帰に関する住民意識について

\* 本田裕子<sup>1</sup>・高橋正弘<sup>1</sup>

## A report of residents' mind at Noda City, Chiba, Japan about re-introduction of Oriental White Stork and its implementation

\* Yuko Honda<sup>1</sup>, and Masahiro Takahashi<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Department of Public Policy, Faculty of Regional Development, Taisho University

3-20-1 Nishi-sugamo, Toshima-ku, Tokyo, 170-8470

\* E-mail: yukohonda2013@gmail.com

### 背景・目的

2005年に兵庫県豊岡市内でコウノトリの野生復帰（放鳥）が実施され、2025年で20年の節目となる。2005年に豊岡市内で5羽が最初に放鳥されたが、その後の複数自治体での放鳥実施や野外での繁殖が成功し、2024年11月末時点で463羽が国内で生息している（注1）。100羽を超えたのが2017年、200羽を超えたのが2020年、300羽を超えたのが2022年、400羽を超えたのが2024年であり、近年生息数が増加している。これまで放鳥が実施された自治体は5自治体、野外繁殖の実績をもつ自治体は2024年の繁殖シーズンまでで30自治体が確認されている（注2）。

このように、コウノトリの生息数増加、野外繁殖地の増加をふまえると、「コウノトリとの共生」に対する住民の理解・協力が各地に拡がる必要があるとあり、さらにその継続性も重要といえる。そのためには、放鳥実施あるいは生息地周辺自治体の住民意識を把握し、住民の理解・協力の得られる野生復帰として常に軌道修正する必要があると考える。

本研究で対象とする千葉県野田市では、2015年から2023年まで17羽が放鳥され、2024年には野外繁殖が成功し、2羽の巣立ちが確認された。野田市では「コウノトリとの共生」を生物多様性保全のシンボルと位置づけ、2012年から飼育を開始し、周辺の環境保全にも力を入れてきている。

筆者らはこれまで2015年と2022年に野田市民を対象にコウノトリの野生復帰に関するアンケート調査を実施した（高橋・本田 2016；高橋・本田 2022）。それらの結果ではコウノトリおよび野生復帰におおむね肯定的な回答が得られている。本研究では、2015年の最初の放鳥から9年が経過し、また2024年に野外繁殖が成功したこともふまえて、改めて住民意識を把握することで、今後とも続いていくコウノトリの野生復帰の取り組みが住民から理解と協力が得られるための考察を行うこととする。

なお、コウノトリの野生復帰の取り組みにおける千葉県野田市の位置づけについては、千葉県野田市は関東地方で唯一野生復帰を実施してきた自治体となる。コウノトリの生息は最初に野生復帰が実施された兵庫県豊岡市周辺が中心となっているが、近年では関東地方にも生息が拡大している。野外繁殖の成功実績については、前述の30自治体中、関東地方の自治体は6自治体となる。そして、埼玉県鴻巣市では2021年からコウノトリの飼育を開始し、繁殖が成功すれば放鳥も計画している。以上をふまえると、関東地方で放鳥実施および野外繁殖の実績のある千葉県野田市での住民意識を把握することは関東地方の他の自治体の住民意識を検討する際の参考資料となる。なお、既報（本田・高橋 2024a）で報告した、千葉県野田市・埼玉県鴻巣市・栃木県小山市で実施したwebアンケート調査は予備的な調査であり、本研究が千葉県野田市での本調査という位置づけとなる。

### 方法

本研究で取り上げる野田市で実施したアンケート調査は、野田市自然経済推進部みどりと水のまちづくり課および「自然と人を育む地域づくり推進協議会」（事務局は国土交通省江戸川河川事務所）の協力を得て、2024年11月18日から12月13日の期間で実施したものであり、12月23日までの返信分を含めた。千葉県野田市内に居住する20歳から79歳の男女について、住民基本台帳から無作為抽出した1,000人が対象となる。郵送法により実施し、宛先不明や受け取り拒否等で2通が返送され、回収数としては423通となり、回収率は42.4%となる。

<sup>1</sup> 大正大学地域創生学部公共政策学科  
170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1  
\* E-mail: yukohonda2013@gmail.com

表1. アンケート調査票の構成.

| 質問番号 | 質問内容                       |
|------|----------------------------|
| 1    | 回答者の年代・性別                  |
| 2    | 回答者の居住地・野田市内の居住年数          |
| 3    | 野田市への定住意思の有無               |
| 4    | 回答者の職業                     |
| 5    | 環境問題への関心の有無                |
| 6    | 「野田を象徴するもの」のイメージ           |
| 7    | 「野田の自然」のイメージ               |
| 8    | 野田市の環境課題                   |
| 9    | 野田市の環境政策への認識               |
| 10   | コウノトリの写真選択                 |
| 11   | コウノトリのイメージ                 |
| 12   | コウノトリ及び保護への認識              |
| 13   | 野田市内での野外にいるコウノトリの目撃について    |
| 14   | 野田市での野生復帰実施の賛否について         |
| 15   | 市内での野生復帰の取り組みについての心配の有無    |
| 16   | 市内での野生復帰の取り組みについての期待の有無    |
| 17   | 市内でのコウノトリの生息希望             |
| 18   | 市内でのコウノトリの生息数増加のために何かをする意思 |
| 19   | コウノトリ保護のための環境教育や啓発活動について   |
| 20   | 将来の農業被害について                |
| 21   | 野外で生息するコウノトリの死亡について        |
| 22   | 市内で生息するコウノトリの責任主体について      |
| 23   | 回答者自身のコウノトリの位置づけ           |
| 24   | 野田市の課題                     |

表2. 回答者の年代および性別\*.

| 年代   | 人数  | (%)     | 内男性 | (%)     | 内女性 | (%)     |
|------|-----|---------|-----|---------|-----|---------|
| 20歳代 | 17  | (4.9)   | 7   | (4.9)   | 10  | (4.9)   |
| 30歳代 | 58  | (16.7)  | 26  | (18.2)  | 32  | (15.7)  |
| 40歳代 | 119 | (34.3)  | 47  | (32.9)  | 72  | (35.3)  |
| 50歳代 | 114 | (32.9)  | 48  | (33.6)  | 66  | (32.4)  |
| 60歳代 | 38  | (11.0)  | 15  | (10.5)  | 23  | (11.3)  |
| 70歳代 | 1   | (0.3)   | 0   | (0.0)   | 1   | (0.5)   |
| 回答者数 | 347 | (100.0) | 143 | (100.0) | 204 | (100.0) |

\*年代や性別について「回答しない」や無回答は除いている。  
性別については回答者のみを集計した.

ちなみにこれまで実施したアンケート調査は、2015年に放鳥の前後に2回、そして2022年に1回となる。2015年調査は選挙人名簿から20歳から79歳の男女500人を無作為抽出し、放鳥実施の6月の前後（6月と11月）に郵送法により実施した。回収率は、6月調査29.6%、11月調査（往復はがきによる簡易な調査）は21.0%となる。2022年調査は調査会社に登録しているモニター279人（20歳代から70歳代は265人）である。これらの調査と比較すると、今回のアンケート調査は郵送法により1,000人を対象にした本格的な調査といえ、回収率も比較的高い結果となった。質問数は24問となり、表1に整理した。

なお本研究では単純集計の結果を報告する。林・山岡（2002）は、単純集計の意義として調査結果の比較であると指摘している。コウノトリの野生復帰は「ゴール」として「安定したメタ個体群構造の確立」、「コウノトリと共生する持続可能な地域社会の実現」、「コウノトリが普通種になること」を掲げており（注3）、野生復帰を実施した自治体に限らず、野外繁殖の実績のある自治体も含めて、多くの地域で住民の理解と協力を継続的に得ていくことが求められる。したがって、本研究では、回答

表3. 市内の居住地区と野田市内の居住歴と定住意思.

|         | 選択肢        | 人数  | (%)     |
|---------|------------|-----|---------|
| 市内の居住地区 | 中央地区       | 106 | (25.4)  |
|         | 南部地区       | 68  | (16.3)  |
|         | 川間地区       | 59  | (14.1)  |
|         | 北部地区       | 52  | (12.4)  |
|         | 福田地区       | 35  | (8.4)   |
|         | 木間ヶ瀬地区     | 30  | (7.2)   |
|         | 東部地区       | 21  | (5.0)   |
|         | 関宿地区       | 14  | (3.3)   |
|         | 二川地区       | 13  | (3.1)   |
|         | わからない      | 20  | (4.8)   |
|         | 回答者数       | 418 | (100.0) |
| 市内の居住歴  | 生まれてからずっと  | 127 | (30.1)  |
|         | 3年未満       | 12  | (2.8)   |
|         | 3年以上5年未満   | 7   | (1.7)   |
|         | 5年以上10年未満  | 27  | (6.4)   |
|         | 10年以上20年未満 | 79  | (18.7)  |
|         | 20年以上      | 170 | (40.3)  |
| 市内の定住意思 | 回答者数       | 422 | (100.0) |
|         | 意思あり       | 382 | (91.2)  |
|         | 意思なし       | 37  | (8.8)   |
|         | 回答者数       | 419 | (100.0) |

の全体的な傾向が把握でき、他の自治体との調査結果とも比較が容易である単純集計の結果を報告し、コウノトリおよび野生復帰についての野田市民が持つ現状の認識について考察を行っていく。

## 結果

### 1. 回答者について

#### 1-1) 属性（年代・性別・自治体内の居住歴・職業）

回答者の年代と性別を表2に整理した。回答者の平均年齢は47.26歳であった。40歳代、50歳代が男女ともに多い結果となった。

市内の居住地区と野田市内の居住歴と定住意思については表3に整理した。居住地区では中央地区が最も多く、

表4. 職業（複数回答含む）.

| 選択肢          | 人数  | (%)    |
|--------------|-----|--------|
| 勤め人（会社員など）   | 188 | (44.4) |
| アルバイト・パートタイム | 105 | (24.8) |
| 家事専業         | 43  | (10.2) |
| 公務員・団体職員・教員  | 34  | (8.0)  |
| 自営業          | 33  | (7.8)  |
| 無職           | 17  | (4.0)  |
| 農業           | 3   | (0.7)  |
| 学生           | 1   | (0.2)  |
| 林業・水産業       | 0   | (0.0)  |
| その他          | 6   | (1.4)  |
| 回答者数         | 423 | (—)    |

表5. 回答者と調査対象者の属性（年代・性別・居住地区）の比較（注4）.

|       | 選択肢    | 回答者 |         | 非回答者   |         | 住民基本台帳 |         |
|-------|--------|-----|---------|--------|---------|--------|---------|
|       |        | 人数  | (%)     | 人数     | (%)     | 人数     | (%)     |
| 年代    | 20歳代   | 18  | (5.0)   | 15138  | (13.3)  | 15156  | (13.2)  |
|       | 30歳代   | 59  | (16.4)  | 15192  | (13.3)  | 15251  | (13.3)  |
|       | 40歳代   | 124 | (34.5)  | 20458  | (17.9)  | 20582  | (18.0)  |
|       | 50歳代   | 117 | (32.6)  | 22471  | (19.7)  | 22588  | (19.7)  |
|       | 60歳代   | 40  | (11.1)  | 17581  | (15.4)  | 17621  | (15.4)  |
|       | 70歳代   | 1   | (0.3)   | 23210  | (20.4)  | 23211  | (20.3)  |
|       | 計      | 359 | (100.0) | 114050 | (100.0) | 114409 | (100.0) |
| 性別    | 男性     | 155 | (41.2)  | 58491  | (51.3)  | 58646  | (51.3)  |
|       | 女性     | 221 | (58.8)  | 55542  | (48.7)  | 55763  | (48.7)  |
|       | 計      | 376 | (100.0) | 114033 | (100.0) | 114409 | (100.0) |
| 居住地区* | 関宿地区   | 14  | (3.5)   | 2493   | (1.6)   | 2507   | (1.6)   |
|       | 二川地区   | 13  | (3.3)   | 10462  | (6.8)   | 10475  | (6.8)   |
|       | 木間ヶ瀬地区 | 30  | (7.5)   | 11403  | (7.4)   | 11433  | (7.4)   |
|       | 中央地区   | 106 | (26.6)  | 29291  | (19.1)  | 29397  | (19.1)  |
|       | 東部地区   | 21  | (5.3)   | 17942  | (11.7)  | 17963  | (11.7)  |
|       | 南部地区   | 68  | (17.1)  | 35741  | (23.3)  | 35809  | (23.3)  |
|       | 北部地区   | 52  | (13.1)  | 24733  | (16.2)  | 24785  | (16.1)  |
|       | 川間地区   | 59  | (14.8)  | 12696  | (8.3)   | 12755  | (8.3)   |
|       | 福田地区   | 35  | (8.8)   | 8374   | (5.5)   | 8409   | (5.5)   |
|       | 計      | 398 | (100.0) | 153135 | (100.0) | 153533 | (100.0) |

\*居住地区については、住民基本台帳および非回答者は20歳代から70歳代ではなく、全体の人数となる。

市内の居住歴は「20年以上」、「生まれてからずっと」が多く選ばれた。また市内の定住意思については「あなたは特別な事情が発生しない限り、今後も野田市内に住み続けようと思っていますか」という質問を設定した。結果は9割が「はい」という結果となった。

職業は、「勤め人（会社員など）」が最も多く選ばれ、その次に「アルバイト・パートタイム」が多く選ばれている（表4）。

ここでは今回のアンケート調査の回答者が母集団を代表しているのか、回答者の属性を、想定している野田市全域の住民構成と比較する。方法としては、抽出した時点と同じ2024年10月1日時点での住民基本台帳のデータを用いる。今回のアンケート調査の回答者の年代、性別、居住地区の構成が、住民基本台帳からアンケート調査回答者を除くことで算出した非アンケート調査回答者におけるそれと変わりが無い、という帰無仮説を立ててカイ二乗検定を実施した。

結果は表5の通り、年代、性別、居住地区で住民基本

台帳の構成と異なった（注5）。年代では40歳代、50歳代の回答者が多く、20歳代、70歳代の回答者が少なかった。性別では女性が多くなった。居住地区では中央地区、川間地区が多く、東部地区で少なくなった。これらの結果をふまえると、今回のアンケート調査の回答者は実際の野田市全域住民の構成とは異なる結果であるが、一般的にアンケート調査においてこのような偏りが生じてしまうこと、また今回は40歳代、50歳代という、いわゆる「働き盛り」の世代、野田市の中心部である中央地区からの回答が多かった。このことは野田市の施策であるコウノトリの野生復帰についての意識調査の結果に一定程度の影響があることも示唆される。本研究ではこれらの偏りを前提として分析することとした。

#### 1-2) 野田市についての認識

野田市について、「野田を象徴するもの」および「野田の自然を象徴するもの」について質問した結果は、「醤油・キッコーマン」、「清水公園」や「川・運河」がそれぞれ多く選ばれた（表6）。

表6. 野田および野田の自然を象徴するもの.

|              | 選択肢       | 人数  | (%)     |
|--------------|-----------|-----|---------|
| 野田を象徴するもの    | 醤油・キッコーマン | 380 | (89.8)  |
|              | 枝豆        | 12  | (2.8)   |
|              | 清水公園      | 12  | (2.8)   |
|              | 川・運河      | 9   | (2.1)   |
|              | コウノトリ     | 6   | (1.4)   |
|              | その他       | 4   | (0.9)   |
|              | 回答者数      | 423 | (100.0) |
| 野田の自然を象徴するもの | 清水公園      | 202 | (47.8)  |
|              | 川・運河      | 155 | (36.6)  |
|              | 森林        | 21  | (5.0)   |
|              | 関宿地区・関宿城  | 19  | (4.5)   |
|              | 水田・谷津     | 16  | (3.8)   |
|              | その他       | 10  | (2.4)   |
|              | 回答者数      | 423 | (100.0) |

表7. 環境問題への関心の有無と環境政策に関する認知・野田市の環境課題.

|             | 選択肢                              | 人数   | (%)     |
|-------------|----------------------------------|------|---------|
| 環境問題への関心の有無 | 関心あり                             | 333  | (79.1)  |
|             | 関心なし                             | 88   | (20.9)  |
|             | 回答者数                             | 421  | (100.0) |
| 環境政策に関する認知  | 市の環境政策への関心                       | 260  | (61.9)  |
|             | 市の環境基本計画の認知                      | 32   | (7.6)   |
|             | 生物多様性という言葉の認知                    | 257  | (61.2)  |
|             | 「第2期生物多様性の戦略」の認知                 | 19   | (4.5)   |
|             | 野田市産ブランド米「黒酢米」の認知                | 243  | (57.9)  |
|             | 関東エコロジカル・ネットワークの取り組みの認知          | 14   | (3.3)   |
|             | 「野田自然共生ファーム」の認知                  | 118  | (28.2)  |
|             | 野田自然共生ファームが開催する「市民農園」に参加したことがあるか | 10   | (2.4)   |
|             | 「市民農園」の存在を知らない                   | 192  | (45.8)  |
|             | 回答者数                             | 420* |         |
| 野田市の環境課題    | ごみの不法投棄・ポイ捨て                     | 120  | (28.6)  |
|             | 自然環境の減少・開発                       | 90   | (21.5)  |
|             | ごみのリサイクル                         | 83   | (19.8)  |
|             | 農地の減少・荒廃                         | 52   | (12.4)  |
|             | 河川の整備                            | 41   | (9.8)   |
|             | 野生動物による被害                        | 25   | (6.0)   |
|             | その他                              | 8    | (1.9)   |
|             | 回答者数                             | 419  | (100.0) |

\*「市の環境基本計画の認知」423人,「関東エコロジカル・ネットワークの取り組みの認知」418人, 野田自然共生ファームの認知と市民農園の参加,「存在を知らない」の質問の回答者数は419人となる.

環境問題への関心, 環境政策への認知, 野田市の環境課題については表7に整理した. 環境問題は約8割が「関心あり」という結果となった. 環境政策に関する認知では, 野田市の環境政策への関心や生物多様性という言葉の認知は約6割であったが, 野田市の環境基本計画(2021年改訂)や生物多様性地域戦略(「第2期生物多様性の戦略」(2023年3月策定)), 関東エコロジカル・ネットワークの取り組みの認知はいずれも1割以下である. 野田市内の農業と自然の共生を推進する拠点でもある「野田自然共生ファーム」の認知は約3割,「野田自然共生ファーム」が開催している「市民農園」の参加率は2.4%であり,「存在を知らない」は45.8%である. 一方で, 野田市が取り組んでいるブランド米「黒酢米」の認知度は約6割と比較すると高い. 野田市の環境課題では「ごみの不法投棄・ポイ捨て」と「ごみのリサイクル」が合計すると約半数となる.

野田市の課題としては12のテーマについて,「ほとんど重要ではない」,「あまり重要ではない」,「やや重要」,「非常に重要」の4段階で質問した. 結果は図1に整理した.「非常に重要」の割合が多かった順に挙げると,「子どもの教育環境の充実」(66.7%),「自然災害への対策」(63.2%),「医療・福祉サービスの充実」(60.8%)となった.

## 2. コウノトリおよび関連事項の認知

コウノトリそのものを認知しているかどうかについて, コウノトリを含めた4種の写真(図2)から正解である(3)の「コウノトリ」を選択する質問の結果では, 正解率が83.6%となった(表8).

次にコウノトリに関連する事項の認知(表9)であるが,「『コウノトリが絶滅のおそれがあること』の認知」は8割を超えている. 一方で「『兵庫県豊岡市でのコウノトリの野生復帰の取り組みがあること』の認知」は20%台である. 2015年からの市内での野生復帰の取り組みの

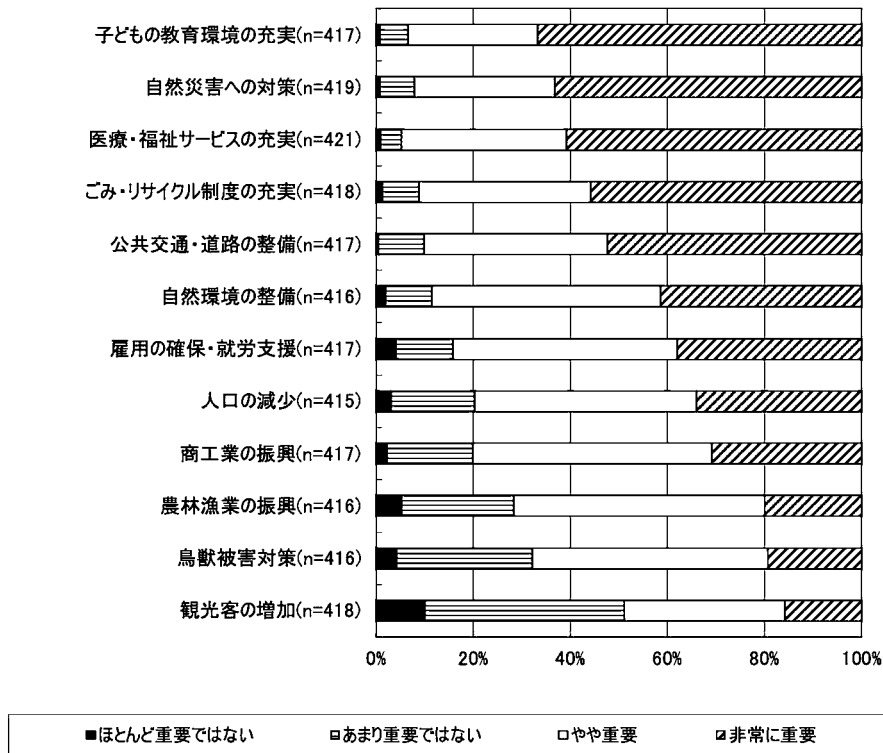


図1. 野田市の課題。



図2. アンケート調査で質問した「4種の写真」(注6)。

表8. 4種の写真からのコウノトリの選定.

| 選択肢          | 人数  | (%)     |
|--------------|-----|---------|
| (1) 不正解：アオサギ | 22  | (5.4)   |
| (2) 不正解：コサギ  | 26  | (6.4)   |
| (3) 正解：コウノトリ | 341 | (83.6)  |
| (4) 不正解：トキ   | 19  | (4.7)   |
| 回答者数         | 408 | (100.0) |

表9. コウノトリに関する認知.

| 質問                                         | 人数   | (%)    |
|--------------------------------------------|------|--------|
| コウノトリが絶滅のおそれがあることの認知                       | 355  | (84.1) |
| 兵庫県豊岡市でのコウノトリの野生復帰の取り組みがあることの認知            | 109  | (25.8) |
| 2015年から野田市においてコウノトリの野生復帰の取り組みが実施されていることの認知 | 339  | (80.3) |
| 2024年に野田市内でコウノトリが野外で繁殖したことの認知              | 264  | (62.6) |
| 野田市内にあるコウノトリの飼育施設「こうのとりの里」に行ったことがあるか       | 116  | (27.6) |
| 「こうのとりの里」の存在を知らない                          | 42   | (10.0) |
| 回答者数                                       | 422* |        |

\* 「こうのとりの里」の認知と「存在を知らない」の質問の回答者数は420人となる。

表10. 市内でのコウノトリの目撃.

|              | 選択肢               | 人数  | (%)     |
|--------------|-------------------|-----|---------|
| 目撃の有無        | 目撃あり              | 59  | (14.0)  |
|              | 目撃なし              | 363 | (86.0)  |
|              | 回答者数              | 422 | (100.0) |
| 目撃の頻度        | ほぼ毎日              | 1   | (1.7)   |
|              | 週に2～5回程度          | 1   | (1.7)   |
|              | 週に1回程度            | 1   | (1.7)   |
|              | 1か月に2, 3回程度       | 1   | (1.7)   |
|              | 1か月に1回程度          | 1   | (1.7)   |
|              | 2, 3か月に1, 2回程度    | 2   | (3.4)   |
|              | 半年に1, 2回程度        | 6   | (10.2)  |
|              | 1年に1, 2回程度        | 30  | (50.8)  |
|              | その他               | 16  | (27.1)  |
|              | 回答者数              | 59  | (100.0) |
| 目撃したコウノトリの状況 | 田んぼにいた            | 25  | (42.4)  |
|              | 空を飛んでいた           | 22  | (37.3)  |
|              | 「こうのとり」周辺にいた      | 16  | (27.1)  |
|              | 電柱・鉄塔の上にいた        | 8   | (13.6)  |
|              | 川の中や近くにいた         | 8   | (13.6)  |
|              | 湿地にいた             | 3   | (5.1)   |
|              | 水路にいた             | 3   | (5.1)   |
|              | 人工巣塔の上にいた         | 2   | (3.4)   |
|              | その他               | 5   | (8.5)   |
|              | 回答者数              | 59  | (—)     |
| 目撃の感想        | 大きいと思った           | 32  | (54.2)  |
|              | 嬉しかった             | 27  | (45.8)  |
|              | 美しい／きれいと思った       | 20  | (33.9)  |
|              | 驚いた               | 19  | (32.2)  |
|              | 希少／貴重だと思った        | 18  | (30.5)  |
|              | めでたいと思った          | 6   | (10.2)  |
|              | 周囲の景色に溶け込んでいると思った | 3   | (5.1)   |
|              | 何も思わなかった          | 3   | (5.1)   |
|              | 懐かしいと思った          | 0   | (0.0)   |
|              | 戸惑った／気を遣うと思った     | 0   | (0.0)   |
|              | 憎らしいと思った          | 0   | (0.0)   |
|              | 追い払いたいと思った        | 0   | (0.0)   |
|              | その他               | 0   | (0.0)   |
|              | 回答者数              | 59  | (—)     |

表11. 市内での生息希望と「生息してほしい」理由.

|           | 選択肢                 | 人数  | (%)     |
|-----------|---------------------|-----|---------|
| 生息希望      | 生息してほしい             | 240 | (57.3)  |
|           | 生息してもらいたくない         | 3   | (0.7)   |
|           | どちらでもいい             | 150 | (35.8)  |
|           | 関心がない               | 26  | (6.2)   |
|           | 回答者数                | 419 | (100.0) |
| 生息してほしい理由 | 自然環境が豊かであることを示すから   | 97  | (41.3)  |
|           | 野田市の誇り・象徴・シンボルとなるから | 60  | (25.5)  |
|           | コウノトリが見たいから         | 34  | (14.5)  |
|           | 野田市の活性化につながるから      | 23  | (9.8)   |
|           | コウノトリを飼育しているから      | 16  | (6.8)   |
|           | 経済効果を生み出すから         | 4   | (1.7)   |
|           | その他                 | 1   | (0.4)   |
|           | 回答者数                | 235 | (100.0) |

認知は80.3%，2024年に市内で野外繁殖したことの認知は62.6%，市内の飼育施設「こうのとりの里」に行ったことがある割合は27.6%であった。なお、「こうのとりの里」の「存在を知らない」とする回答は10.0%であった。

3. コウノトリの目撃・生息や野生復帰に関する認識

野田市内で野外にいるコウノトリを目撃したことがあるかどうかについては表10に整理した。目撃経験の割合は14%であり，目撃頻度も「1年に1, 2回程度」が半数である。目撃した際のコウノトリの状況では「田んぼに

いた」，「空を飛んでいた」，「『こうのとりの里』周辺にいた」が多く選ばれている。目撃の感想では「大きいと思った」54.2%，「嬉しかった」45.8%が多く選ばれている。「戸惑った／気を遣うと思った」，「憎らしいと思った」，「追い払いたいと思った」といった回答はゼロ回答であった。

コウノトリの野田市内での生息希望とその理由については表11に整理した。生息希望については57.3%となり，「どちらでもいい」が35.8%である。「生息してほしい」

表12. 野田市でコウノトリの野生復帰を実施することの賛否と「賛成」、「どちらともいえない」、あるいは「反対」理由.

|                | 選択肢                        | 人数  | (%)     |
|----------------|----------------------------|-----|---------|
| 賛否             | おいに賛成                      | 160 | (37.9)  |
|                | どちらかといえば賛成                 | 138 | (32.7)  |
|                | どちらともいえない                  | 99  | (23.5)  |
|                | どちらかといえば反対                 | 13  | (3.1)   |
|                | おいに反対                      | 12  | (2.8)   |
|                | 回答者数                       | 422 | (100.0) |
| 「賛成」理由*        | コウノトリにとっていいことだから           | 161 | (54.2)  |
|                | 環境にとっていいことだから              | 138 | (46.5)  |
|                | 野田市の活性化になるから               | 103 | (34.7)  |
|                | もともと野生の鳥だから                | 87  | (29.3)  |
|                | 農業にとっていいことだから              | 22  | (7.4)   |
|                | 野外にいるコウノトリを見て、肯定的な感想を持ったから | 19  | (6.4)   |
|                | 経済効果を生み出せるから               | 16  | (5.4)   |
|                | 観光客が増えるから                  | 12  | (4.0)   |
|                | その他                        | 6   | (2.0)   |
|                | 回答者数                       | 297 | (—)     |
| 「どちらともいえない」理由* | 自分の生活に関係があるのかわからないから       | 40  | (41.3)  |
|                | 野生復帰がうまくいくかわからないから         | 19  | (37.0)  |
|                | コウノトリに興味・関心がないから           | 31  | (28.3)  |
|                | 賛成・反対の気持ち両方感じているから         | 25  | (19.6)  |
|                | その他                        | 12  | (10.9)  |
|                | 回答者数                       | 97  | (—)     |
| 「反対」理由*        | 資金の無駄だ／他の施策に資金をまわすべきだと思うから | 21  | (87.5)  |
|                | 自分に何のメリットもないから             | 7   | (29.2)  |
|                | 野生復帰なんて無理／成功しないと思うから       | 2   | (8.3)   |
|                | コウノトリに気をつかわなければならないと思うから   | 1   | (4.2)   |
|                | 農業に被害を与えるかもしれないと思うから       | 0   | (0.0)   |
|                | 野外にいるコウノトリを見て、否定的な感想を持ったから | 0   | (0.0)   |
|                | コウノトリを目的に観光客などのよそ者が大勢来るから  | 0   | (0.0)   |
|                | その他                        | 3   | (12.5)  |
|                | 回答者数                       | 24  | (—)     |

\*複数回答含む

表13. 野生復帰の取り組みに関する期待の有無と期待する内容.

|        | 選択肢         | 人数  | (%)     |
|--------|-------------|-----|---------|
| 期待の有無  | 期待あり        | 241 | (57.5)  |
|        | 期待なし        | 178 | (42.5)  |
|        | 回答者数        | 419 | (100.0) |
| 期待する内容 | 自然環境の復元     | 147 | (61.0)  |
|        | 地域経済の振興     | 37  | (15.4)  |
|        | 農業の活性化      | 19  | (7.9)   |
|        | 観光客の増加      | 18  | (7.5)   |
|        | 野田市としてのまとまり | 16  | (6.6)   |
|        | その他         | 4   | (1.7)   |
|        | 回答者数        | 241 | (100.0) |

理由では、「自然環境が豊かであることを示すから」が41.3%と最も多く選ばれた。

次に、野田市でコウノトリの野生復帰を実施することについての賛否とその理由について質問した結果（表12）について取り上げる。「おいに賛成」・「どちらかといえば賛成」を合計すると約7割となる。反対は1割以下であった。野生復帰に「おいに賛成」と「どちらかといえば賛成」と回答した「賛成」理由では、「コウノトリにとっていいことだから」や「環境にとっていいことだから」が1番目（54.2%）や2番目（46.5%）に多く選ばれた。

野生復帰の賛否に「どちらともいえない」と回答した理由では、「自分の生活に関係があるのかわからないか

ら」（41.3%）、「野生復帰がうまくいくかわからないから」（37.0%）が多く選ばれた。野生復帰に「おいに反対」と「どちらかといえば反対」と回答した「反対」理由では、「資金の無駄だ／他の施策に資金をまわすべきだと思うから」（87.5%）に回答が集中していた。

野生復帰の取り組みに関する期待の有無と期待する内容を質問した結果は表13になる。期待の有無では、「期待する」割合が57.5%となった。期待する内容については「自然環境の復元」に61.0%と回答が集中した。

野生復帰の取り組みに関する心配の有無と心配の内容を質問した結果は表14となる。心配の有無では、「心配していない」割合が48.6%と最も多く選ばれ、「心配する」割合は20.1%であった。心配の内容は「野生に帰すこと

表14. 野生復帰の取り組みに関する心配の有無と心配の内容.

| 選択肢    |                                     | 人数  | (%)     |
|--------|-------------------------------------|-----|---------|
| 心配の有無  | 心配する                                | 85  | (20.1)  |
|        | 心配していない                             | 205 | (48.6)  |
|        | 何も思わない                              | 132 | (31.3)  |
|        | 回答者数                                | 422 | (100.0) |
| 心配の内容* | 野生に帰すことが成功するかどうか心配                  | 55  | (64.7)  |
|        | 見物客がたくさん来て、ゴミのポイ捨てなど問題を起こすのではないかな   | 19  | (22.4)  |
|        | 鳥インフルエンザ等が発生するのではないかな               | 9   | (10.6)  |
|        | 周辺の開発ができないのではないかな                   | 8   | (9.4)   |
|        | 農業面での心配 (農薬や除草剤を使えなくなる、苗が踏まれるなどの心配) | 6   | (7.1)   |
|        | 日常生活において、コウノトリに気をつかわなければならない        | 5   | (5.9)   |
|        | その他                                 | 17  | (20.0)  |
| 回答者数   |                                     | 85  | (—)     |

\*複数回答含む

表15. 将来にコウノトリが農業被害を与えと思うか、被害が深刻な場合の対応の内容.

| 選択肢         |                                 | 人数  | (%)     |
|-------------|---------------------------------|-----|---------|
| 農業被害を与えと思うか | はい                              | 13  | (3.1)   |
|             | いいえ                             | 83  | (19.8)  |
|             | わからない                           | 323 | (77.1)  |
|             | 回答者数                            | 419 | (100.0) |
| 対応の内容*      | 被害がまだ発生していないので、現段階で議論する必要はないと思う | 123 | (39.8)  |
|             | 被害を受けた農家への金銭的補償                 | 92  | (29.8)  |
|             | 捕獲、場合によっては駆除                    | 36  | (11.7)  |
|             | 関心・興味がない                        | 23  | (7.4)   |
|             | 何もするべきではない                      | 13  | (4.2)   |
|             | その他                             | 22  | (7.1)   |
|             | 回答者数                            | 309 | (100.0) |

\*「はい」と「わからない」の回答者に質問.

表16. 回答者にとっての「コウノトリ」のイメージと意味することから.

| 選択肢  |                  | 人数  | (%)     |
|------|------------------|-----|---------|
| イメージ | 赤ちゃんを運ぶ鳥         | 252 | (60.0)  |
|      | 絶滅危惧種            | 101 | (24.0)  |
|      | 野生復帰／放鳥          | 24  | (5.7)   |
|      | 自然環境             | 10  | (2.4)   |
|      | 兵庫県豊岡市           | 9   | (2.1)   |
|      | 美しい／きれい          | 6   | (1.4)   |
|      | 大空を飛ぶ            | 6   | (1.4)   |
|      | 大きい              | 4   | (1.0)   |
|      | 害鳥               | 2   | (0.5)   |
|      | 農業／米             | 0   | (0.0)   |
|      | その他              | 6   | (1.4)   |
|      | 回答者数             | 420 | (100.0) |
| 捉え方  | 貴重な鳥             | 147 | (35.0)  |
|      | 豊かな環境の象徴やバロメータ   | 72  | (17.1)  |
|      | 野田市の誇り・象徴・シンボル   | 55  | (13.1)  |
|      | 他の生きものと一緒        | 48  | (11.4)  |
|      | 別に何も思わない         | 47  | (11.2)  |
|      | 一度絶滅した鳥          | 22  | (5.2)   |
|      | 野田市の活性化の起爆剤      | 15  | (3.6)   |
|      | 世話のかかるもの・面倒なもの   | 5   | (1.2)   |
|      | 経済効果を生み出すもの      | 2   | (0.5)   |
|      | 農作物を販売するうえでの付加価値 | 1   | (0.2)   |
|      | 苗を踏み倒す害鳥         | 0   | (0.0)   |
|      | その他              | 6   | (1.4)   |
|      | 回答者数             | 420 | (100.0) |

が成功するかどうか心配」が64.7%と回答が集中していた。「農業面での心配 (農薬や除草剤を使えなくなる、苗が踏まれるなどの心配)」は7.1%であった。

将来、コウノトリが農業被害を与えるかどうかについては表15の通り、「わからない」が最も多く選ばれ、77.1%と回答が集中していた。被害が深刻な場合の対応

の内容は、「被害がまだ発生していないので、現段階で議論する必要はないと思う」、「被害を受けた農家への金銭的補償」が多く選ばれていた。

#### 4. コウノトリの捉え方

回答者にとってのコウノトリのイメージと捉え方は表16に整理した。イメージでは「赤ちゃんを運ぶ鳥」が



表17. 市内での生息数が増加するために何かする意思の有無と「何かする」内容.

|           | 選択肢                               | 人数  | (%)     |
|-----------|-----------------------------------|-----|---------|
| 意思の有無     | 意思あり                              | 218 | (51.9)  |
|           | 意思なし                              | 202 | (48.1)  |
|           | 回答者数                              | 420 | (100.0) |
| 「何かする」内容* | 環境に配慮した生活を実践する（ごみ減量、省エネなど）        | 124 | (56.9)  |
|           | クウノトリを大事に思うようにする                  | 117 | (53.7)  |
|           | 農薬をできるだけ使わない／農薬をできるだけ使っていない作物を買う  | 32  | (14.7)  |
|           | クウノトリの生息地づくりに協力する（田んぼ・湿地・里山など）    | 30  | (13.8)  |
|           | クウノトリを活かした経済活動に協力する（関連商品の販売・購入など） | 24  | (11.0)  |
|           | その他                               | 3   | (1.4)   |
|           | 回答者数                              | 218 | (—)     |

\*複数回答含む

表18. 野外でクウノトリが死亡した場合の感想と市内に生息するクウノトリの責任（保護、事故の場合など総合）主体.

|      | 選択肢                  | 人数  | (%)     |
|------|----------------------|-----|---------|
| 感想*  | 野生の生き物なので仕方がない       | 284 | (67.5)  |
|      | かわいそう／悲しい            | 166 | (39.4)  |
|      | 自然環境の整備が必要と感じる       | 106 | (25.2)  |
|      | 人工物での事故の対策が必要と感じる    | 97  | (23.0)  |
|      | ゴミのポイ捨て・放置の対策が必要と感じる | 83  | (19.7)  |
|      | 今まで費やした資金の無駄だと思う     | 15  | (3.6)   |
|      | 関心・興味が低い             | 10  | (2.4)   |
|      | 天敵となる動物を駆除すべきだと思う    | 9   | (2.1)   |
|      | これ以上野生復帰をする必要がないと思う  | 8   | (1.9)   |
|      | そもそも野生復帰をしなければよかった   | 7   | (1.7)   |
|      | 行政に責任を感じる            | 5   | (1.2)   |
|      | その他                  | 6   | (1.4)   |
|      | 回答者数                 | 420 | (—)     |
| 責任主体 | 野田市（行政）              | 148 | (35.4)  |
|      | 誰も担わなくていい            | 97  | (23.2)  |
|      | 国（行政）                | 50  | (12.0)  |
|      | 野田市民全体               | 31  | (7.4)   |
|      | こうのとりの里              | 29  | (6.9)   |
|      | 千葉県（行政）              | 25  | (6.0)   |
|      | 国民全体                 | 20  | (4.8)   |
|      | 千葉県民全体               | 2   | (0.5)   |
|      | 周辺の住民                | 0   | (0.0)   |
|      | その他                  | 16  | (3.8)   |
|      | 回答者数                 | 418 | (100.0) |

\*複数回答含む

60.0%となった。「絶滅危惧種」（24.0%）が続いた。捉え方では「貴重な鳥」が35.0%と最も多く選ばれ、「豊かな環境の象徴やバロメータ」（17.1%）や「野田市の誇り・象徴・シンボル」（13.1%）が続いた。

次に、市内での生息数が増加するために回答者が何かする意思の有無とその内容について質問した結果は表17となる。意思の有無で「意思あり」の割合は51.9%であった。内容について、「環境に配慮した生活を実践する」（56.9%）や「クウノトリを大事に思うようにする」（53.7%）が多く選ばれた。

野外でクウノトリが死亡した場合の感想と市内に生息するクウノトリの責任（保護、事故の場合など総合）主体については表18に整理した。死亡の感想では「野生の生き物なので仕方がない」が67.5%と最も多く選ばれていた。「今まで費やした資金の無駄だと思う」、「これ以

上野生復帰をする必要がないと思う」、「そもそも野生復帰をしなければよかった」、「行政に責任を感じる」といった野生復帰の取り組みにネガティブな回答はごく少数であった。

一方で責任主体については、「野田市（行政）」が35.4%と最も多く選ばれ、次が「誰も担わなくていい」（23.2%）であった。死亡の感想では「野生の生き物なので仕方がない」が最も多かった。

## 5. クウノトリの保護に関する環境教育・啓発に対する認識

クウノトリの保護に関する環境教育・啓発について、その対象として1番目・2番目を尋ねたところ、それぞれで「野田市全域住民」、「野田市全域の子ども」、「国民全体」が多く選ばれた（表19）。内容と方法については表20に整理した。内容としては「クウノトリを含む野田の

表19. 環境教育や啓発活動の対象.

| 選択肢        | 1番目 | (%)     | 2番目 | (%)     |
|------------|-----|---------|-----|---------|
| 野田市全域の住民   | 149 | (36.1)  | 111 | (30.7)  |
| 野田市全域の子ども  | 90  | (21.8)  | 71  | (19.7)  |
| 国民全体       | 86  | (20.8)  | 68  | (18.8)  |
| 行政職員       | 35  | (8.5)   | 33  | (9.1)   |
| 生息地周辺の住民   | 35  | (8.5)   | 29  | (8.0)   |
| 野田市内の農業従事者 | 6   | (1.5)   | 29  | (8.0)   |
| 観光業者       | 3   | (0.7)   | 5   | (1.4)   |
| 観光客        | 2   | (0.5)   | 14  | (3.9)   |
| その他        | 7   | (1.7)   | 1   | (0.3)   |
| 回答者数       | 413 | (100.0) | 361 | (100.0) |

表20. 環境教育や啓発活動の内容と方法.

|    | 選択肢                       | 人数  | (%)     |
|----|---------------------------|-----|---------|
| 内容 | コウノトリを含む野田の自然環境           | 107 | (27.0)  |
|    | コウノトリの生態・特徴               | 66  | (16.6)  |
|    | コウノトリを活用した地域活性化の取り組み      | 50  | (12.6)  |
|    | 今後のコウノトリの野生復帰計画の展望        | 35  | (8.8)   |
|    | 野田市によるコウノトリの保護政策          | 31  | (7.8)   |
|    | コウノトリの飼育数および野生下での生息数      | 25  | (6.3)   |
|    | コウノトリの天敵や生息を脅かす外来種        | 23  | (5.8)   |
|    | コウノトリが生息している場所の情報         | 20  | (5.0)   |
|    | 水田やビオトープに生息する生きもの         | 8   | (2.0)   |
|    | コウノトリと他の鳥との違いや見分け方        | 7   | (1.8)   |
|    | 市民団体によるコウノトリの保護活動         | 5   | (1.3)   |
|    | その他                       | 20  | (5.0)   |
|    | 回答者数                      | 397 | (100.0) |
| 方法 | 学校の授業の中での学習・体験活動          | 152 | (37.1)  |
|    | インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信  | 87  | (21.2)  |
|    | 紙媒体の広報誌を通じた定期的な情報の発信      | 42  | (10.2)  |
|    | コウノトリに関するイベント・研修会・講習会の実施  | 39  | (9.5)   |
|    | ポスターやチラシ、ステッカーなどを活用した広報活動 | 37  | (9.0)   |
|    | コウノトリの見学や観察               | 26  | (6.3)   |
|    | 生息地整備などのボランティア活動          | 18  | (4.4)   |
|    | その他                       | 9   | (2.2)   |
|    | 回答者数                      | 410 | (100.0) |

表21. 環境教育や啓発活動が市内で必要かどうか、また行われていると思うか.

|            | 選択肢            | 人数  | (%)     |
|------------|----------------|-----|---------|
| 必要かどうか     | はい             | 238 | (56.8)  |
|            | いいえ            | 28  | (6.7)   |
|            | わからない          | 153 | (36.5)  |
|            | 回答者数           | 419 | (100.0) |
| 行われていると思うか | 十分に行われていると思う   | 32  | (7.7)   |
|            | 少し行われていると思う    | 129 | (30.9)  |
|            | あまり行われていないと思う  | 105 | (25.1)  |
|            | まったく行われていないと思う | 14  | (3.3)   |
|            | わからない          | 138 | (33.0)  |
|            | 回答者数           | 418 | (100.0) |

自然環境」(27.0%)と「コウノトリの生態・特徴」(16.6%)が多く選ばれた。方法としては、「学校の授業の中での学習・体験活動」(37.1%)が最も多く選ばれた。

コウノトリに関する環境教育や啓発が市内で必要かどうかと、どの程度行われているかについては表21に整理した。「必要ある」は56.8%,「わからない」が36.5%であった。どの程度行われているかについては、「わからない」(33.0%),「少し行われていると思う」(30.9%),「あまり行われていないと思う」(25.1%)に回答が分かれた。

## 考察

以上の集計の結果から、野田市民はコウノトリおよび野生復帰に対して、ある程度認知しており、肯定的に捉えていることがわかった。

コウノトリに対しては「貴重な鳥」という認識が最も多く選ばれ、コウノトリの野生復帰の取り組みについてはコウノトリそのものに対してよいという認識および環境に対してよいという認識が多く選ばれていた。野田市

表22. クロス集計：年代・性別・居住地区\*.

|    |                 | 賛成     | どちらともいえない | 反対   |
|----|-----------------|--------|-----------|------|
| 年代 | 20歳代 (n=18)     | 72.2%  | 22.2%     | 5.6% |
|    | 30歳代 (n=59)     | 79.7%  | 16.9%     | 3.4% |
|    | 40歳代 (n=123)    | 71.5%  | 23.6%     | 4.9% |
|    | 50歳代 (n=117)    | 70.1%  | 21.4%     | 8.5% |
|    | 60歳代 (n=40)     | 72.5%  | 20.0%     | 7.5% |
|    | 70歳代 (n=1)      | 100.0% | 0.0%      | 0.0% |
| 性別 | 男性 (n=155)      | 74.2%  | 20.6%     | 5.2% |
|    | 女性 (n=220)      | 70.5%  | 22.7%     | 6.8% |
| 地区 | 福田地区 (n=35)     | 71.4%  | 22.9%     | 5.7% |
|    | 木間ヶ瀬地区 (n=30)   | 80.0%  | 16.7%     | 3.3% |
|    | それ以外の地区 (n=332) | 70.5%  | 23.2%     | 6.3% |

\*賛成は「おおいに賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計、反対は「おおいに反対」と「どちらかといえば反対」の合計。

での野生復帰の取り組みに関して期待することでも「自然環境の復元」が多く選ばれ、コウノトリが環境保全と関連づけて認識されている。

野田市での野生復帰の取り組みについての賛否は、「おおいに賛成」、「どちらかといえば賛成」が多く選ばれ、これらを「賛成」として合計すると70.6%になる。ちなみにこれまで野田市で実施してきたアンケート調査結果の「賛成」割合は、2015年調査（放鳥前、郵送）64.8%、2015年調査（放鳥後、郵送）70.5%、2022年調査（web）60.4%であり、対象者数や実施方法が異なるので単純な比較はできないけれども、最初の放鳥実施から9年が経過している時点で「賛成」の割合が継続していることがわかる。野生復帰の取り組みに関して「心配する」割合は20.1%であり、2015年調査（放鳥前、郵送）では49.7%であることから、心配の割合は低下したことが窺える。2024年にコウノトリの野外繁殖が成功したことが肯定的な意識を醸成する上で重要な役割を果たしたものと考えられる。したがって今後の野外繁殖の成否も一定程度野田市民の意識に影響をもたらすことになると考えられる。

また、野田市内で生息するコウノトリについて、保護、事故の場合など総合した上での責任の主体を質問した結果では「野田市（行政）」が35.4%と最も多く選ばれ、「誰も担わなくていい」23.2%、「国（行政）」12.0%、「野田市民」7.4%が続いた。このことから、現状としては野田市が野生復帰事業の主体として認識されており、野田市がこれらの取り組みをさまざまに進めていく主体であることが期待されている。

一方で、野田市内でのコウノトリの目撃の割合は14%に過ぎず、他の自治体での先行調査結果でいえば放鳥経験のある自治体である兵庫県豊岡市で94.7%（本田2021）、野外繁殖の成功実績のある島根県雲南市で68.1%（本田・高橋 2024b）であり、それらと比較すると低い

割合となる。千葉県野田市が東京のベッドタウンであって都市化が進んでいるので、豊岡市や雲南市と生息環境の状況が異なるが、コウノトリおよび野田市の環境政策に関する認知が一定程度あるものの、課題はあるといえる。例えば、「こうのとりの里」に行ったことがある割合が27.6%であるが、前述の豊岡市の調査では市内にある「コウノトリの郷公園」に行ったことがある割合は87.1%であり、豊岡市の結果と比較すると低いので、「こうのとりの里」でのイベント開催の機会を増やすことや「こうのとりの里」自体の周知を図るような企画が今後期待される。

また、環境に関する取り組みについても、環境問題への関心は79.1%、野田市への環境政策への関心は61.9%、「生物多様性」という言葉を聞いたことがある割合は61.2%と一定程度の高さはあるが、「野田市環境基本計画」や「第2期生物多様性の戦略」、「関東エコロジカル・ネットワーク」の取り組み等といった、個々の施策や事業についての認知度は1割以下である。加えて、自然と農業が共生する地域づくりを進められている「野田自然共生ファーム」の認知度（28.2%）およびそこで開催される市民農園の参加率（2.4%、「存在を知らない」は45.8%）は低い。アンケート調査結果では回答者はコウノトリを環境保全に関連づけて認識しているので、この点については積極的な発信の機会を増やし、認知度を高めていく努力が必要となる。市民農園の存在を発信することも必要といえるが、今回のアンケート調査結果から千葉県野田市産ブランド米「黒酢米」の認知度は57.9%と比較して高いことに着目すべきである。「黒酢米」とは玄米黒酢農法で栽培されたお米であり、通常と比べて化学合成農薬と化学肥料を半分以下に減らしている（注7）。2010年から市内の小中学校の給食でも使われていることから、今回のアンケート調査結果でも認知度が一定程度あったと思われる。黒酢米のラベルデザインにはコ

表23. クロス集計：市内でのコウノトリの目撃・環境問題への関心の有無\*.

|    |              | 賛成    | どちらともいえない | 反対   |
|----|--------------|-------|-----------|------|
| 目撃 | 目撃あり (n=59)  | 88.1% | 11.9%     | 0.0% |
|    | 目撃なし (n=362) | 67.7% | 25.4%     | 6.9% |
| 関心 | 関心あり (n=332) | 73.5% | 20.8%     | 5.7% |
|    | 関心なし (n=88)  | 59.1% | 34.1%     | 6.8% |

\*賛成は「おおいに賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計、反対は「おおいに反対」と「どちらかといえば反対」の合計。

ウノトリのイラストも入っているが（注7）、コウノトリの野生復帰の取り組みについて説明があるわけではないので、黒酢米の説明資料にコウノトリの野生復帰の取り組みも併せて明記していくことが求められる（注8）。

本研究では単純集計での回答傾向をみることに主眼においてきたが、回答者の属性別で回答に違いがあるのかどうかについて、クロス集計分析した。具体的には回答者の「年代」、「性別」、「居住地区」（注9）、「市内でのコウノトリの目撃の有無」「環境問題への関心の有無」について、野生復帰の取り組みの賛否の回答で違いがあるかどうかを分析した。

「年代」、「性別」、「居住地区」は表22、「市内でのコウノトリの目撃の有無」、「環境問題への関心の有無」は表23に整理した。これらの表および統計検定（注10）の結果、「市内でのコウノトリの目撃の有無」と「環境問題への関心の有無」については、コウノトリの目撃のある回答、環境問題に関心のある回答者は野生復帰の取り組みに賛成と回答していることが示された。「年代」、「性別」、「居住地区」では違いが見られず、野生復帰の取り組みについての情報発信は年代、性別、居住地区に関わらず、すべての市民を対象にした方がいいことが明らかになった。

表23から、コウノトリの目撃経験と環境問題への関心が、野生復帰の取り組みを肯定的に捉える背景にあると捉えられる。

コウノトリの目撃経験については、野田市内でコウノトリを目撃できる場所が「田んぼ」「『このとりの里』周辺」であり、都市化が進んでいる市内では限られた場所となっている。多くの市民がコウノトリを目撃できるようにするには、まず野田市内でコウノトリが生息できるような環境の整備を進めていくことが必要である。アンケート調査結果では「野田の自然」を象徴する場所として、「清水公園」や「川・運河」が挙げられていた。これらの場所でコウノトリが生息できる環境の整備を進めていくことも、市民がコウノトリを目撃し、野生復帰の取り組みを知る機会となろう。また前述した飼育施設

「このとりの里」の訪問者数を増加させる取り組みを進めていくことも重要である。「このとりの里」のある福田地区は市内でも自然環境が豊かなエリアであり、飼育されているコウノトリも見ることができ、野外にいるコウノトリも目撃しやすいため、「このとりの里」を訪れてもらいやすいような企画やイベント等が増加していくことが期待される。

環境問題への関心を高めるには、市内での環境課題解決への取り組みと意識啓発としての環境教育が重要といえる。野田市の環境課題としては「ごみの不法投棄・ポイ捨て」・「ごみのリサイクル」といったブラウンイシューと、「自然環境の減少・開発」・「農地の減少・荒廃」といったグリーンイシューの両方がそれぞれ選ばれていた。コウノトリは環境保全と関連づけて認識されているので、これらの環境課題の解決とコウノトリを関連づけていくことは今後の課題である。コウノトリの生息環境の保全につながるような市民の関心やニーズに合わせた効果的な情報発信を行い、さらなる環境教育の体制を構築していく必要がある。例えば学校教育においては、コウノトリの生態や環境問題に関する授業の開発やコウノトリの生息する環境での体験学習の充実を目指すこと、また市民向けの講演会やワークショップ、広報誌などを通じて、コウノトリの野生復帰の取り組みや野田市の自然環境に関する情報を積極的に発信すること等である。

## おわりに

先行研究（本田・高橋 2024a）において、関東地方でコウノトリの野生復帰・野外繁殖に関係の深い千葉県野田市・栃木県小山市・埼玉県鴻巣市の3自治体で予備調査（webアンケート調査）を実施し、今後の郵送法による本調査の実施を述べていた。本研究では千葉県野田市で実施したアンケート調査の結果を報告したが、現在栃木県小山市で郵送法によるアンケート調査を実施中である。今後はこれらの本調査の結果の比較や回答者の属性による回答の違いについて詳しい分析をしていきたい。

## 注

- (1) 兵庫県立コウノトリの郷公園「野外個体数」(2025年2月7日閲覧)  
[https://satokouen.jp/in\\_situ/in\\_situ\\_ows\\_num](https://satokouen.jp/in_situ/in_situ_ows_num)
- (2) コウノトリの郷公園で公表されている情報およびメディア情報をもとに筆者らが整理した数字となる。
- (3) 兵庫県立コウノトリの郷公園「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」(2025年3月4日閲覧)  
[https://satokouen.jp/downloads/grand\\_design.pdf](https://satokouen.jp/downloads/grand_design.pdf)
- (4) 表2で記載した年代および性別の数字は、年代（年齢）と性別の質問の両方に回答した人数となる。表5の年代と性別の人数はそれぞれの回答者数となるため、表2の数字より大きいものとなる。
- (5) 検定の結果は以下の通りである。  
 年代：有意差が認められた（ $\chi^2=181.29$ , 有意水準1%, d.f.=5）  
 性別：有意差が認められた（ $\chi^2=11.63$ , 有意水準1%, d.f.=1）  
 居住地区：有意差が認められた（ $\chi^2=79.24$ , 有意水準1%, d.f.=9）
- (6) アオサギ・コサギ・コウノトリの写真提供は伊崎実那氏、トキは筆者撮影となる。
- (7) 野田市「千葉県野田市産『黒酢米』」(2025年2月9日閲覧)  
[https://www.city.noda.chiba.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/008/680/nodasisankurozumai.pdf](https://www.city.noda.chiba.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/008/680/nodasisankurozumai.pdf)  
 野田市「野田産農産物のブランド化」(2025年2月9日閲覧)  
<https://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/seikatsu/nougyou/1000676.html>
- (8) 筆者の所属する大正大学公共政策学科では3年次のゼミ活動で市民農園での稲作体験活動を行っており、4年次の卒業研究で野田市のコウノトリの野生復帰の取り組みをテーマにする学生もこれまで複数人いる。例えば、そのうちの1人は黒酢米とコウノトリの野生復帰の取り組みを関連づけて発信することを提案している。  
 田村万里子「生物多様性保全からみた地域づくりの現状と課題～千葉県野田市のコウノトリの野生復帰および環境保全型農業の取り組みを事例に～」大正大学社会共生学部公共政策学科2024年度卒業研究。
- (9) アンケート調査では市内の地区として9地区を選択

肢として質問しているが、クロス集計では、コウノトリの野生復帰の取り組みに関係する2地区（福田地区：飼育施設「こうのとりの里」があり、この施設から放鳥され、2024年の野外繁殖もこの施設周辺で成功している。木間ヶ瀬地区：人工巣塔が設置されている。）とそれ以外の地区の3つのグループとして分析した。

- (10) 検定の結果は以下の通りである。

年代：有意差が認められなかった（ $\chi^2=4.05$ , d.f.=10）  
 性別：有意差が認められなかった（ $\chi^2=0.76$ , d.f.=2）  
 居住地区：有意差が認められなかった（ $\chi^2=3.85$ , d.f.=4）  
 目撃：有意差が認められた（ $\chi^2=11.05$ , 有意水準1%, d.f.=2）  
 環境問題への関心：有意差が認められた（ $\chi^2=7.41$ , 有意水準5%, d.f.=2）

## 謝 辞

本研究では、日本学術振興会科学研究費基盤研究（C）（研究課題番号：22K12578）および科学研究費基盤研究（B）（研究課題番号：23K22287）の一部を利用しました。調査にご協力いただきました野田市民の皆様、野田市自然経済推進部みどり水のまちづくり課の皆様、自然と人を育む地域づくり推進協議会（事務局：国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所）の皆様には、厚く御礼申し上げます。また、アンケート調査の集計に協力いただいた大正大学公共政策学科の学生3名（太田暖菜氏、広瀬裕大氏、丸田瞳悟氏）にも併せて感謝申し上げます。

## 摘 要

本研究は、千葉県野田市民を対象に実施した郵送法によるアンケート調査の報告となる。コウノトリに対しては「貴重な鳥」という認識が最も多く選ばれ、環境保全と関連づけて認識されていることが窺えた。野生復帰の取り組みについての賛否は、「おおいに賛成」、「どちらかといえば賛成」が多く選ばれ、「賛成」として合計すると70.6%になる。過去に野田市で実施したアンケート調査結果と比較すると「賛成」の割合が比較的高い割合で継続している。野生復帰の取り組みに関して「心配する」割合が低下したことも窺え、2024年にコウノトリの野外繁殖が成功したことが肯定的な意識を醸成する上で重要な役割を果たしたものと考えられる。

野生復帰の賛否と回答者の属性についてクロス集計した結果では、コウノトリの目撃経験と環境問題への関心が、野生復帰の取り組みを肯定的に捉える背景にあることが明らかになった。目撃の現状としては、目撃経験は14%であり、他の自治体での先行調査結果と比較しても低く、コウノトリの生息環境の整備を進めることや飼育施設周辺のイベント企画が今後活発化されることが期待される。環境問題への関心を高めるには市内での環境課題解決への取り組みと意識啓発としての環境教育が重要となる。コウノトリの生息環境の保全につながるような市民の関心やニーズに合わせた効果的な情報発信を意識し、環境教育の体制を構築していく必要がある。

キーワード コウノトリ, 野生復帰, 野外繁殖, 住民意識, 千葉県野田市, アンケート調査

---

## 引用文献

林 文・山岡和枝 (2002) 調査の実際 不完全なデータ

から何を読みとるか― 朝倉書店, 東京, 218 p.

本田裕子 (2021) 放鳥から15年経過時点のコウノトリの野生復帰に関する豊岡市民へのアンケート調査の結果と考察. 野生復帰, 9:39-57.

本田裕子・高橋正弘 (2024a) コウノトリの野生復帰・保全の取り組みを展開している千葉県野田市・埼玉県鴻巣市・栃木県小山市の住民意識について. 野生復帰, 12:39-53.

本田裕子・高橋正弘 (2024b) 島根県雲南市におけるコウノトリの生息と共生に向けた住民意識について―2023年調査結果から― 大正大学研究紀要, 109:145-180.

高橋正弘・本田裕子 (2016) 千葉県野田市におけるコウノトリ放鳥前段階の住民意識について. 野生復帰, 4:55-67.

高橋正弘・本田裕子 (2022) 千葉県野田市におけるコウノトリの野生復帰事業と住民意識―ウェブ調査データを用いて― 野生復帰, 10:25-36.